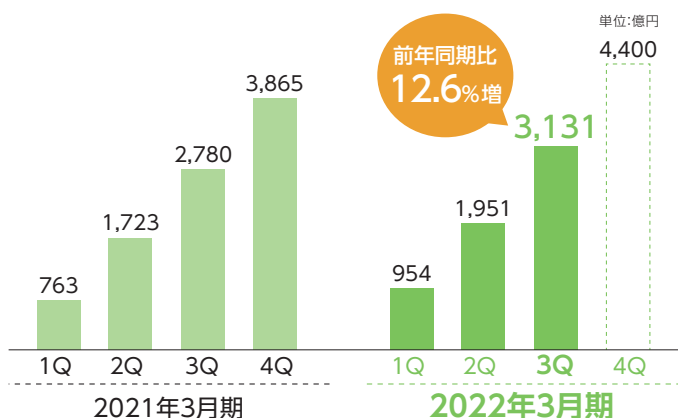
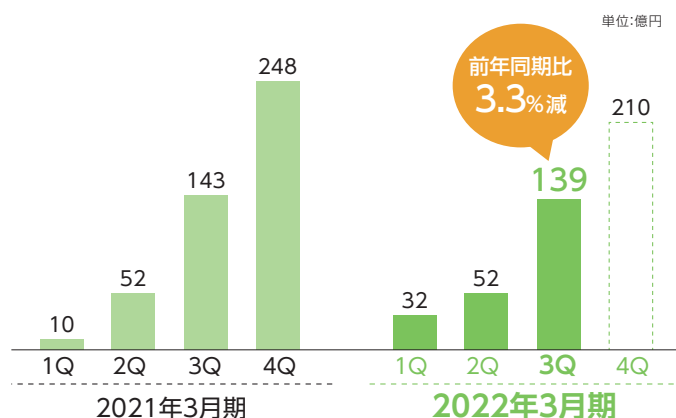


連結業績ハイライト

売上高 **3,131** 億円

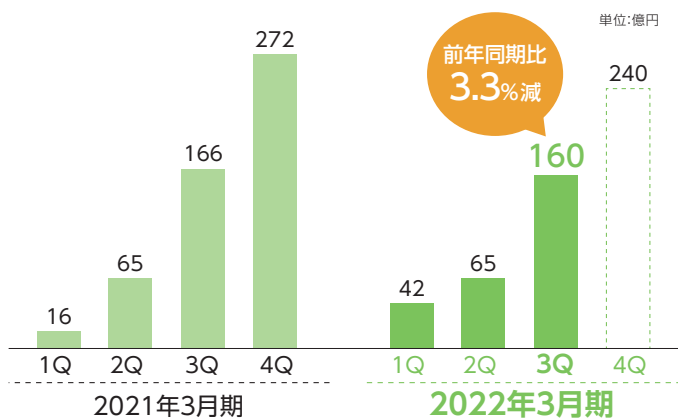


営業利益 **139** 億円

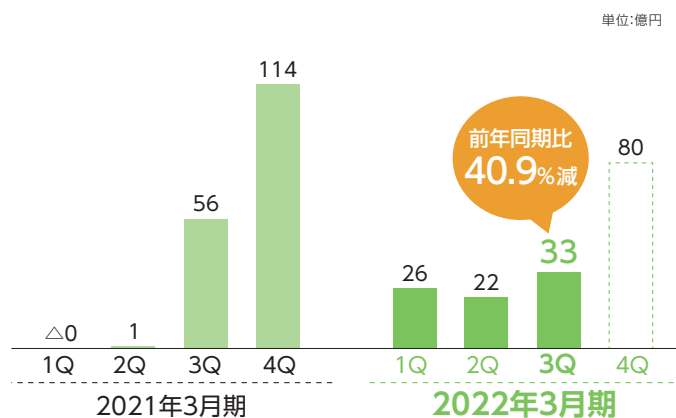


のれん等償却前営業利益 (2022年3月期3Q) **150** 億円 (前年同期比6.3%減)

経常利益 **160** 億円



親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益 **33** 億円



のれん等償却前親会社株主に帰属する
四半期純利益(2022年3月期3Q) **42** 億円 (前年同期比40.8%減)

[連結業績予想の修正について]

2021年11月5日に公表した業績予想のうち、親会社株主に帰属する当期純利益を、中国の連結子会社における減損損失を計上したことなどにより30億円下方修正いたします。

なお、今回の連結業績予想の修正に伴う配当予想の修正はなく、年間配当金は50円/株を予定しています。

TOP MESSAGE

車載用リチウムイオン電池・海外における鉛蓄電池の 販売増加や為替の円安影響により増収となりましたが、 原材料価格上昇の影響を受けて減益となりました。



当第3四半期連結累計期間における世界経済は、各国の経済対策により経済活動の再開が進みましたが、足元では、変異株の発生に伴う新型コロナウイルス感染症が再拡大傾向にあります。加えて、原材料価格上昇、部材不足やコンテナ不足によるサプライチェーンの混乱などもあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経済状況の中、当社グループでは、主として車載用リチウムイオン電池の販売が増加していることや、海外における鉛蓄電池の販売が増加したことに加え、為替の円安影響もあり、当第3四半期連結累計期間の売上高は、3,131億46百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて351億29百万円増加(12.6%)しました。営業利益は、主に原材料価格上昇の影響を受け、139億2百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて4億80百万円減少(△3.3%)しました。なお、のれん等償却前営業利益は、150億62百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて10億15百万円減少(△6.3%)しました。また、経常利益は、160億76百万円と前第3四半期連結累計期間に比べて5億47百万円減少(△3.3%)しました。一方、親会社株主に帰属する四半期純利益は、中国の連結子会社における減損損失を計上したことなどにより、33億48百万円と、前第3四半期連結累計期間に比べて23億18百万円減少(△40.9%)しました。

代表取締役
取締役社長 村尾 修

特集 Special Issue

「GY環境長期目標2030」達成に向けた取り組み

当社グループは、2021年5月に発表した「GY環境長期目標2030」*1の達成に向け、3つの施策に取り組んでいます。

「GY環境長期目標2030」達成に向けた3つの施策

施策1 省エネルギー対策の推進

- ① 省エネルギー対応設備への更新
- ② 効率的な充電処方の展開、新規開発
- ③ ピークカット・ピークシフトの実施

取り組み例

- 国内** 京都事業所の工場建屋の屋根を遮熱塗装して空調設備のエネルギー使用量を削減



施工前



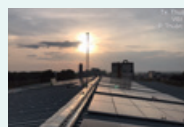
遮熱塗装後の工場の屋根

施策2 再生可能エネルギーの自家消費

- ① 敷地内発電量を試算し、初期投資とPPA*2モデル活用を検討
- ② 自社製品(リチウムイオン電池や蓄電システムなど)の導入や実証実験の実施

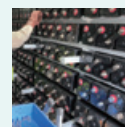
取り組み例

- 海外** ベトナム拠点
(GS Battery Vietnam Co., Ltd.)
太陽光発電を開始



設置した太陽光パネル

- 海外** イギリス拠点
(GS Yuasa Battery Manufacturing UK Limited)
太陽光パネルを設置



自社製のピークシフト用産業用蓄電池を併設



太陽光パネル取り付け工事の様子

施策3 再生可能エネルギーの調達

- ① 再生可能エネルギーを活用した電力の購入
- ② 排出権取引の活用

取り組み例

- 国内** 京都事業所の本社工場の電力を100%再生可能エネルギー電力に

2021年11月1日、主力工場である京都事業所で使用する年間約100GWhの電力を、すべて非化石証書*3を活用した実質再生可能エネルギー由来100%の電力に切り替える契約を関西電力株式会社と締結しました。今回の電力切り替えにより、国内事業所における再生可能電力の使用率は30%(2020年度実績ベース)となり、CO₂排出量50,000t相当*4の削減を見込んでいます。

2021年11月1日のニュースリリースはこちら
https://www.gs-yuasa.com/jp/newsrelease/article.php?uicode=gs211013155022_1070



*1 2030年度までに当事業活動による温室効果ガスを、2018年度比で30%以上削減することを目標としています。

*2 Power Purchase Agreementの略で、発電者と消費者の間で締結する電力販売契約のことです。

*3 非化石電源(石炭や石油等の化石燃料を使用せずに発電する電源)から発電された電気は、電気本来の価値と環境面での価値を持ち、その環境面での価値を証書化したものです。

*4 当社が基準とする2016年度のCO₂排出係数より算出しています。

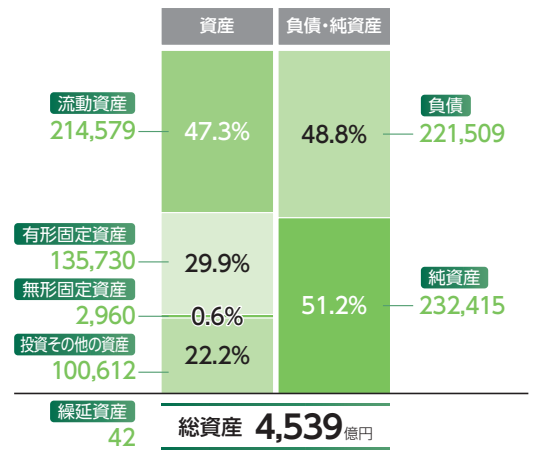
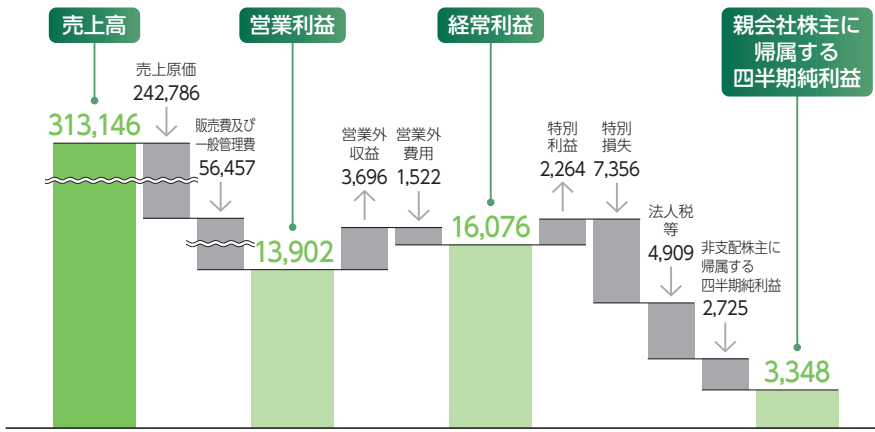
連結損益計算書

[当第3四半期(累計)] (2021年4月1日~12月31日)

(百万円)

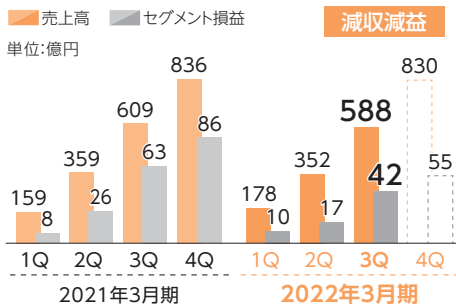
連結貸借対照表

[当第3四半期末] (2021年12月31日) (百万円)



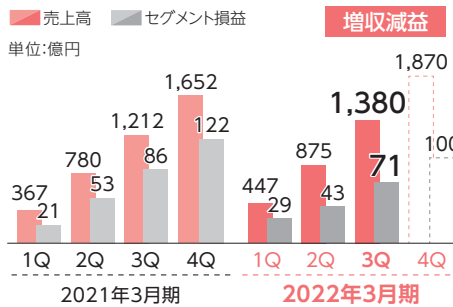
セグメント別連結業績

自動車電池事業(国内)



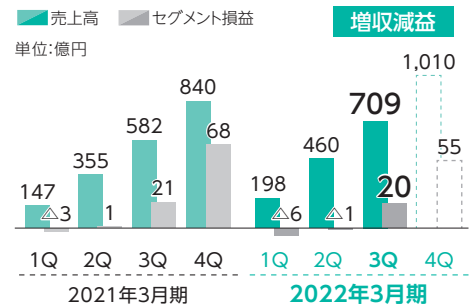
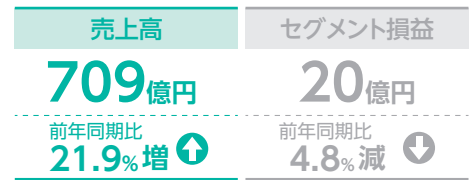
- 半導体不足による新車メーカーの減産の影響により新車向け販売数量が減少
- 保有車両の継続使用の増加、中古車市場活況などの影響により補修向け販売数量が前期並みに推移
- 原材料価格上昇の影響によりセグメント損益が減少

自動車電池事業(海外)



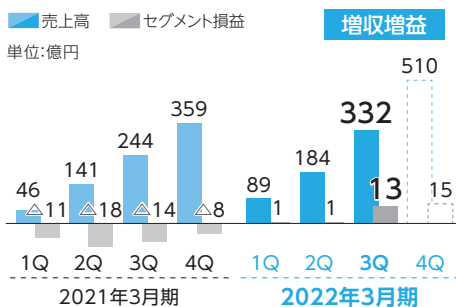
- アセアンにおいて自動車用・オートバイ用、欧州において自動車用・産業用の販売数量が増加
- 円安の影響、鉛価格上昇に伴う販売価格上昇により売上高が増加
- 原材料価格上昇や物流費上昇の影響によりセグメント損益が減少

産業電池電源事業



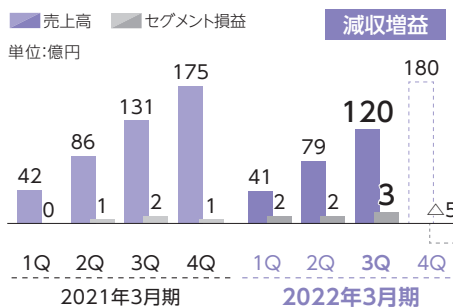
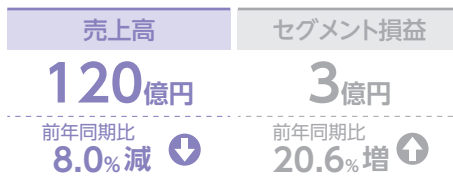
- 大型風力発電用リチウムイオン電池は3Qに納入完了し、売上高が増加
- サンケン電気株式会社の社会システム事業の譲受により連結対象に追加
- 原材料価格上昇や販売構成変化の影響によりセグメント損益が減少

車載用リチウムイオン電池事業



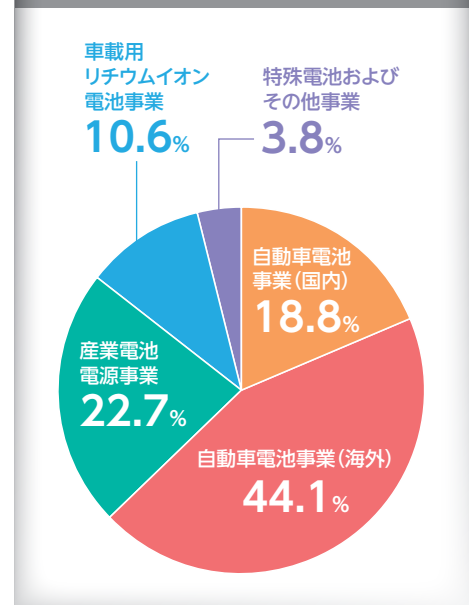
- プラグインハイブリッド車用リチウムイオン電池の搭載車種は販売が回復
- ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量は採用車種の拡大により増加
- 売上高の増加に伴いセグメント損益が改善

特殊電池およびその他事業



- 売上高は潜水艦用リチウムイオン電池の工事進行基準の影響などにより減少
- 航空機用リチウムイオン電池の販売はエアライン(補修)向けが堅調に推移
- 経費の減少によりセグメント損益が増加

売上高構成比



(注) セグメント損益はのれん等償却前営業利益です。

Topics 1

NEDO 航空機用先進システム実用化プロジェクト※の中間目標を達成

株式会社 GSユアサは、国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の航空機用先進システム実用化プロジェクトにおける、研究開発項目⑧「次世代電動推進システム研究開発」のうち、「軽量蓄電池」に関する研究開発に取り組んでおり、本プロジェクトの3年目において、中間目標の一つである「400Wh/kg級-リチウム硫黄電池の実証」に成功しました。

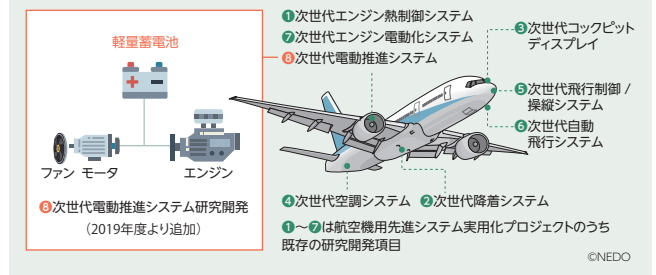
高エネルギー密度で安価なリチウム硫黄電池は、ポストリチウムイオン電池として期待される一方で、硫黄が絶縁体であるため理論容量に近い高容量を得ることが困難である点と、反応中間体(多硫化物)が電解液へ溶解し、硫黄正極の性能が低下するという点の2つの問題を有していましたが、要素技術開発の再委託先である関西大学とともにこれら2つの問題を解決し、「400Wh/kg級-リチウム硫黄電池(電池容量8Ah、

質量エネルギー密度370Wh/kg以上)を実証しました。



リチウム硫黄電池の外観
(電池容量: 8 Ah)

航空機用先進システム実用化プロジェクトの概要



軽量蓄電池の実用化を通じて、次世代航空機の実現とともに、持続可能な経済社会のために、脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※安全性が高く軽量・低コストの航空機用先進システムを開発し、次世代航空機に提案可能なレベルまで成熟させることを目的としたプロジェクトで、8つの研究開発項目で構成されています。

Topics 2

GSユアサの宇宙用リチウムイオン電池が準天頂衛星初号機後継機に搭載

当社グループの株式会社 ジーエス・ユアサ テクノロジー製の宇宙用リチウムイオン電池は、国内外の200機以上の宇宙機に搭載されてきた実績と、高真空の宇宙空間で長期間の運用に耐えうる性能が評価され、内閣府の衛星測位システム「みちびき」(準天頂衛星初号機)~「みちびき4号機」に続いて、2021年10月に打ち上げられた初号機後継機に採用されています。2010年に打ち上げられた準天頂衛星初号機は、2号機~4号機とともに4機体制で衛星測位サービスを提供しており、初号機後継機はこの役割を引き継ぐとともに、配信する測位信号の精度向上が期待されています。

今後も最高水準の性能・品質を持つ製品を、社会インフラ構築に重要な役割を果たす人工衛星に搭載することにより、社会の発展に貢献してまいります。



準天頂衛星「みちびき4号機」
出典:内閣府 みちびきウェブサイト

宇宙用リチウムイオン電池
(セル)

●会社概要 (2021年12月31日現在)

商号 株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
(GS Yuasa Corporation)

事業目的 電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。

設立 2004年4月1日

資本金 33,021百万円

本社所在地 京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地
電話(075)312-1211

ホームページ <https://www.gs-yuasa.com/jp>

上場金融商品 東京証券取引所 市場第一部

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション

当社の株主・投資家情報サイトで
各社IRサイトランキングで
表彰されました!

企業ホームページ
最優秀サイト
2021
日興アイ・アール
総合ランキング

IRサイト
総合ランキング
銀賞
2021年

Internet
優良賞
2021
Best Site

<https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/>



こちらから
アクセスできます。



✉ IRメール配信サービスのご案内

当社のIRに関する最新情報を
メールでお知らせいたします。

登録はこちらから

<https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/irmail.php>

